

# 小児声帯結節

声帯はのどの奥（のどぼとけのあたり）にあります。声帯に異常があると声の変化がおこります。幼児、学童の声帯の代表的な病気として、小児声帯結節があげられます。声帯にタコのようなふくらみの出来る病気です。

悪性のものではありません。

幼稚園児、小学校の低学年の男子に多い病気です。

声帯に負担のかかる発声方法が、結節のできる原因といわれています。

## 小児声帯結節の治療

子どもさんの声の変化に気がいたら、節度ある発声方法をまもらせてください。

ゆっくり話をする習慣をつけ、“**はきはき話をする事と、大声を出す事**”との違いを教える事がたいせつです。

かぜぎみで、特に声が出しにくい時は、一週間位沈黙をまもらせる必要があります。

急性期には、薬物療法や、のどのネブライザーが有効です。

## 小児声帯結節は自然になおるか？

上記の注意を守れば、70%～80%は、変声期（12才～15才）になると、自然に治ります。

## 小児声帯結節の手術

ひどい“声がれ”でなければ、変声期を過ぎる迄待つべきでしょう。

日常生活に困るほどひどい場合は変声期前でも手術をする事もあります。手術は、全身麻酔で、入院期間は二週間位です。手術後二週間は完全に、沈黙をまもる必要があります。

手術後も、再発予防のために、無理な発声方法を改善しなければなりません。家族、学校の先生、スポーツのコーチ等の協力が必要です。

矢野耳鼻咽喉科 医学博士	藤沢市善行 1-25-11 日本耳鼻咽喉科学会専門医 日本耳鼻咽喉科学会専門医 日本耳鼻咽喉科学会専門医	8 1 矢野 矢野 矢野	3 5 4 1 潮 ゆかり さゆり
-----------------	---	-----------------------	----------------------------